

## 移動支援対策委員会 アンケート結果

新潟県作業療法士会移動支援対策委員会では、自動車運転が困難な対象者に対して、代替手段の提案が必要との認識を得ています。一方で、提案に関して必要な情報(地域での移動手段や社会資源等)が不足しているとの声を会員の皆様からも頂いております。また、昨今新型コロナウイルスが世界各国で猛威を振るい、作業療法士のみならず、対象者も各種社会参加等の作業の自粛を余儀なくされたことも非常に多かったことと存じます。このことが、地域での移動手段や移動に関する資源にも影響を与えたのではないかと感じております。そこで、今年度は、事業の一つとして、各地域の移動資源の把握や新型コロナウイルスによる外出自粛によって生じた生活の影響を把握し課題を検討したいと考え、新潟県下の施設に在籍されている会員の皆様にアンケート調査をお願いしておりました。その結果について、本稿に簡単にまとめさせていただきましたので、ご報告申し上げます。

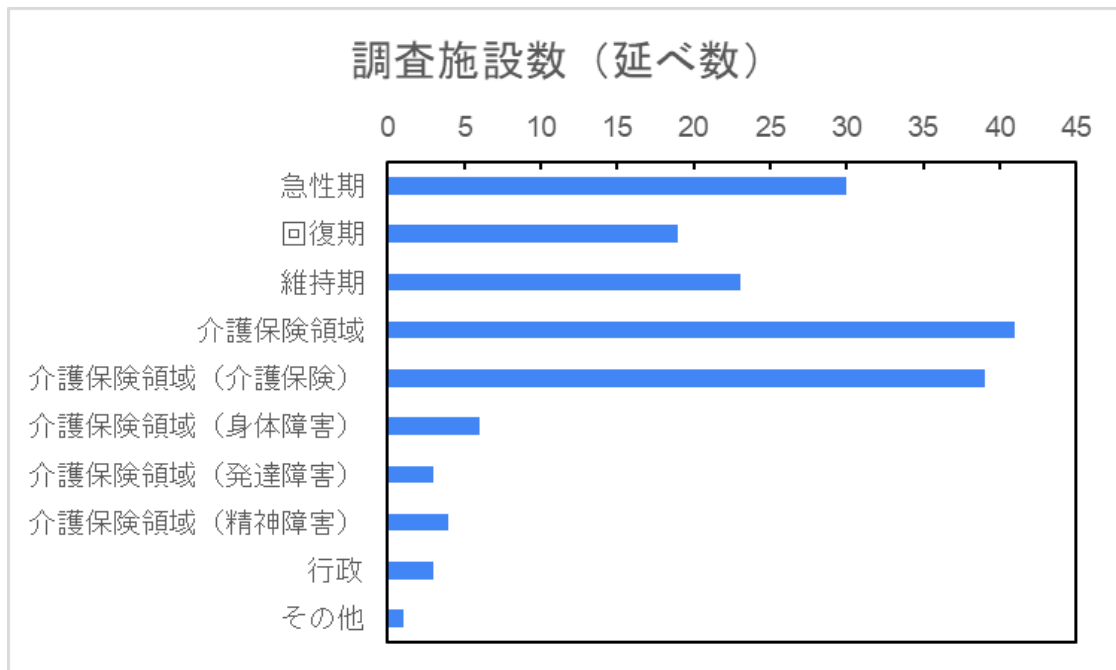
調査期間:2020年8月～11月

アンケート回収率:34.6%(100/289件)

解析方法:記述統計, KH coder を用いたテキストマイニング(単語については, “リハビリ” や “リハ” などの表記ゆれや同義語については, “リハビリ” という一つの単語として統一できるように設定した)

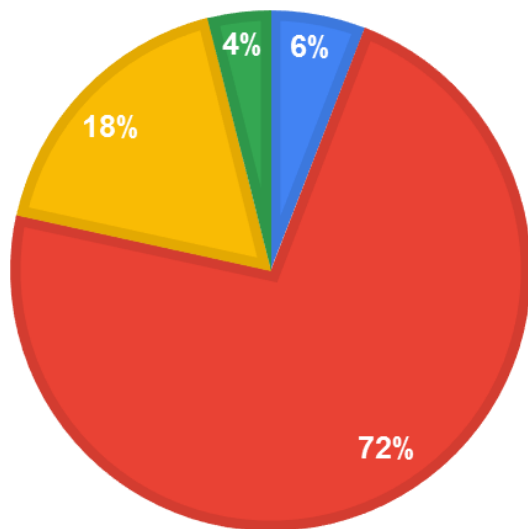
### 質問 2. 貴施設は下記のうち、どの領域に属していますか？

調査施設数 (延べ数)



### 質問 3. 地域の移動手段や移動に関わる資源について、どの程度把握をされていますか？

■把握している ■概ね把握している ■あまりわからない ■わからない



### 質問 4. 質問 3 で「把握している」、「概ね把握している」と回答した方にお聞きします。具体的にどのような移動手段・資源があるかご記載下さい。

- 自家用車
- デマンド交通
  - デマンドバス
  - デマンドタクシー
- 福祉タクシー・介護タクシー
- 福祉バス
- バス
  - 路線バス
  - 地域巡回バス, コミュニティバス
  - 循環バス
  - 病院バス
  - イオンバス
- 行政による支援
  - 重度身体障害者移動支援事業
- NPO による有償運送
- 地域やボランティア等の無償運送
- 社会福祉協議会によるガイドヘルパー
- 知人や家族の送迎

**質問 5. 質問 4 で③、④のいずれかと回答した方にお聞きします。わからないと回答した理由をご記載下さい。**

**1. 入所施設等で使用対象者が不在のため**

- 入居施設のみの特養のため、施設の車で移動を行う。そのほかの移動手段については使用する事がない為。
- 長期入所の利用者に関わっています。利用者様が地域の移動手段を使うことはほぼありません。(稀に福祉タクシー)バスの便もあまり良くないこともあり、面会の方もほぼ自家用車で来所されます。他に何をどのように答えればいいのかわかりません。
- 長期入所の利用者に関わっています。利用者様が地域の移動手段を使うことはほぼありません。(稀に福祉タクシー)バスの便もあまり良くないこともあり、面会の方もほぼ自家用車で来所されます。他に何をどのように答えればいいのかわかりません。
- 利用する対象者がいないため
- 在宅部門だけでなく、入居担当で資源と接点がない。
- 移動支援のサービスを使って生活をしている外来の患者がいないため
- 入院施設であり、使用する頻度が少ない
- 知っていることが全てかわからない。入所されている方なので、利用することがなく把握していない
- 施設内での仕事が主のため、移動資源について関わる機会がない
- 自分や周りの方で利用していることが少ない

**2. 公共交通やタクシー等、よく使われる手段が中心であり、その他の手段を把握していないため**

- デイ対象者に対しては、福祉タクシーやヘルパーとタクシー等を利用しての移動位しかわかりません。私自身、その手段を知りたいです。
- どのような移動手段があるのか元々しっかりと把握していなかった。コロナが流行してからも、移動手段の変更や制限があったかは自分で調べなかったし、市などからしっかりと市民が周知できるような説明はなかったと思う。
- 利用者や地域の方がよく使われる交通手段については把握しているが、他の交通手段の資源については情報があまりないため
- 公共のものや、法人が行なっている独自のものは把握しているが、個人サービスのものは把握できていないと思われる為
- 路線バス、電車、介護タクシーといった資源以外は把握していない
- 現在、職場のある地域の移動は福祉タクシー、町民用巡回バス(1回200円)。基本自家用車で送迎が多い

**3. 移動に関する支援に関わったことがない、詳細な条件等の知識不足のため**

- 資源を調べていないから
- 関わったことがない
- 勉強不足、連携(市との)不足
- 自分がほとんど使用しないため
- 4月の人事異動で赴任したため、地域の状況がまだ把握できていない。
- 路線バス、市民バスなどのルートや本数を把握していないため。
- あることは知っているが、どこに届け出るか、自己負担はいくらか、使える条件などは知らず、人に尋ねられても答えられないため
- 主な移動手段は自家用車。他に電車と地域によってはコミュニティバスがあるが、新型コロナウイルスの流行により運航に変化があったのかを把握していないため

- 保護者の自家用車が大半。移動支援制度の利用の割合や数は地域による制度、受給可能な対象かどうか等全体の把握が難しい
- 公共交通機関の事か、ヘルパー等の同行のものか、介護タクシーの事か、明確の物をあげられないため。知識不足の為。
- 自分（施設の職員）が把握しているものが、どの程度把握できているかに値するか不明確であるため
- 移動の制限を伴う対象者が少ないため、情報が集まりにくい
- 入職して間もないこと、コロナウイルスの影響で活動が停止しているため

#### 4. 地域が広域であり把握が困難であるため

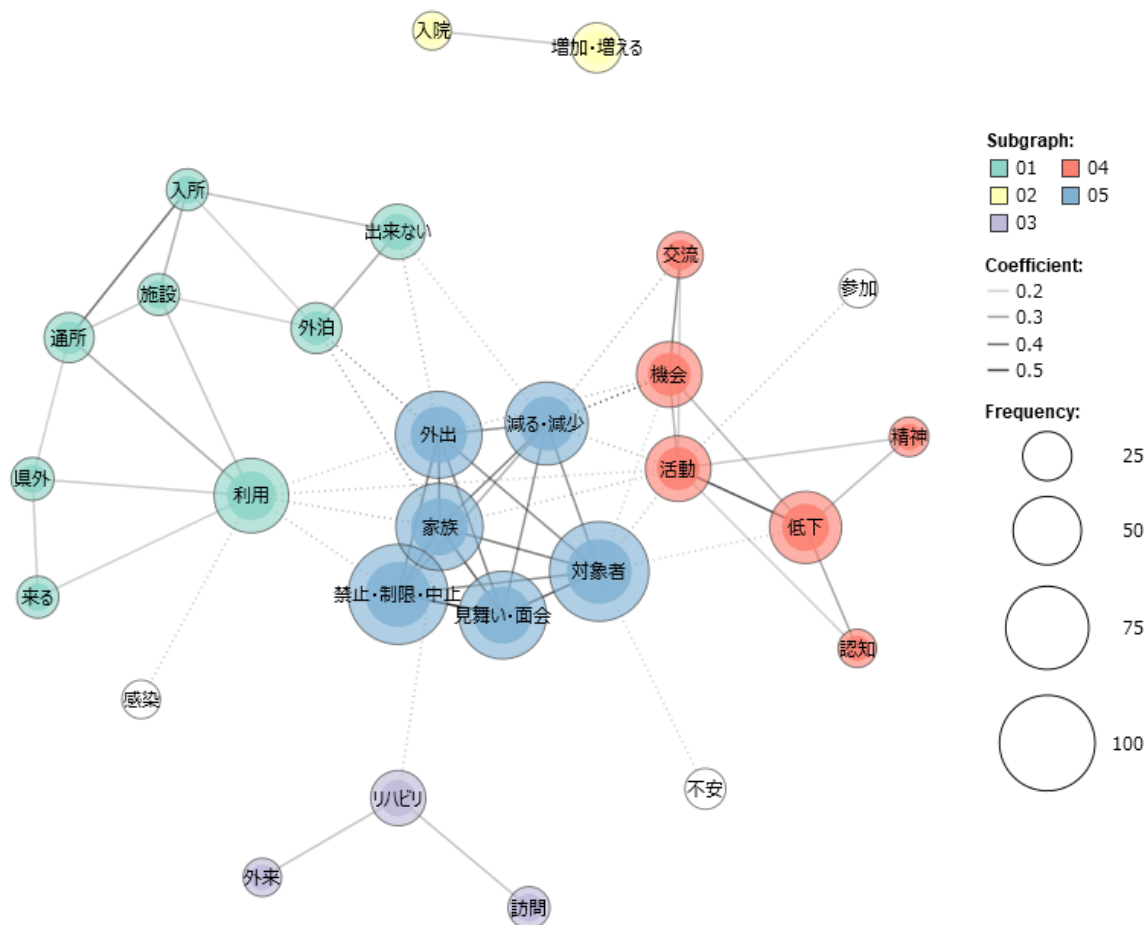
- 地域が広いのでよく分らないです（公共交通機関など）、自家用車がベストと思います。
- 燕市、三条市、弥彦村、新潟市西蒲区・西区・南区、長岡市（寺泊、中之島）など様々な地域の方が入院されており、すべての把握が難しい。

**質問 6. 新型コロナウイルス流行下（3～5月）における外出自粛で、移動や活動参加に支障が出た対象者は施設内にどれくらいいましたか？（把握されている実人数で結構です。）支障が出た具体例）外来や通所に来なくなった、見舞いがなくなった、活動性が低下したなど**

本質問については、集計基準が統一されていなかったため、分析対象とはしなかった。

## 質問 7. 新型コロナウイルス流行前と比べて、外出自粛下で対象者にどのような影響が出たか？具体的に記述をお願いします。

質問 7 に出現した単語における共起ネットワーク図



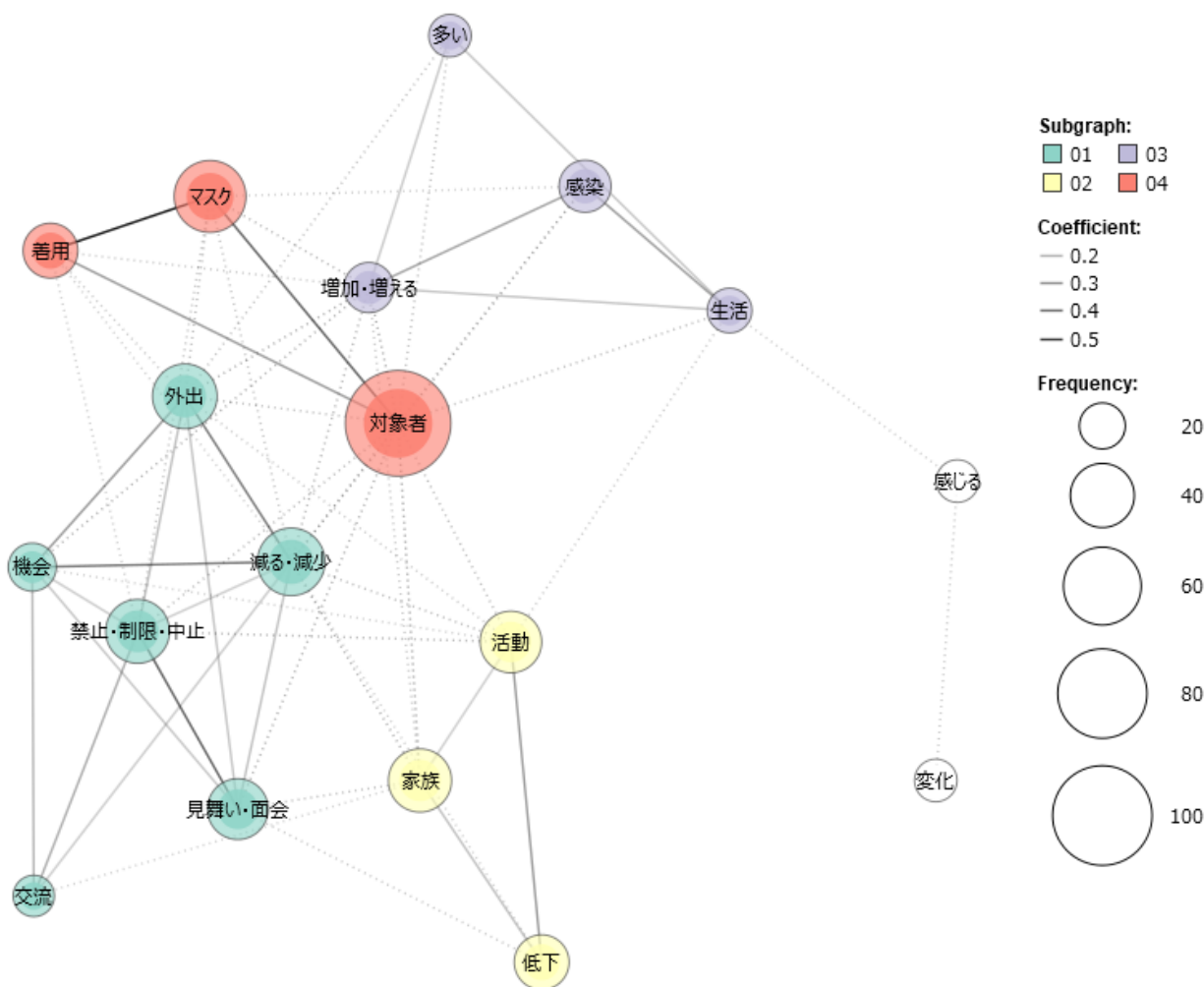
頻出単語（出現頻度が 30 以上の単語）として、出現頻度が多い順に「禁止・制限・中止」、「対象者」、「見舞い・面会」、「家族」、「外出」、「減る・減少」、「利用」、「低下」、「活動」、「機会」、「リハビリ」、「出来ない」が挙げられている。

各単語の集まり（サブグラフ）をみていくと、サブグラフ 1 では、「利用」、「出来ない」、「外泊」、「通所」、「入所」、「施設」、「県外」、「来る」が挙げられており、入所施設での外泊ができなくなったことや、通所施設では仕事等で家族の県外との往来があった場合に利用の中止や制限などの影響を受けたことが推察される。サブグラフ 2 では、「増加・増える」、「入院」が挙げられており、介助量の増加や不穏、抑うつ状態になることが増えたこと、転倒や骨折の事例が増えて入院に至るなどの影響が推察される。サブグラフ 3 では、「リハビリ」、「外来」、「訪問」が挙げられており、外来通院の中止や終了・延期、訪問リハの中止等の影響があったことが推察された。サブグラフ 4 では、「低下」、「活動」、「機会」、「交流」、「精神」、「認知」が挙げられており、各種活動や交流の機会の減少による各種機能低下などのネガティブな影響があったことが推察される。サブグラフ 5 では、「禁止・制限・中止」、「対象者」、「家族」、「見舞い・面会」、「減る・減少」、「外出」が挙げられており、見舞い・面会の禁止・制限・中止、対象者の外出頻度の減少などいわゆる活動の自粛が挙げられている。

以上のことから、活動や外出自粛を発端とした外来リハや訪問リハの中止、各種活動機会の減少や各種機能の低下、介助量の増加等で入院につながっているケースがあること、入院・入所においては面会などの家族とのつながりを持てる場が制限を受けていること、通所等においては、本人の体調面に関わらず家族が県外への往来があった場合など間接的に自粛を強いられているケースもあることがわかった。

## 質問 8. 新型コロナウイルス流行前と比べて、新しい生活様式下で対象者にどのような影響が出ているか？具体的に記述をお願いします。

質問 8 に出現した単語における共起ネットワーク図



頻出単語（出現頻度が 30 以上の単語）として、出現頻度が多い順に「対象者」、「マスク」、「減る・減少」、「外出」、「禁止・制限・中止」、「家族」、「活動」が挙げられている。

各単語の集まり（サブグラフ）をみていくと、サブグラフ 1 では、「外出」、「減る・減少」、「禁止・制限・中止」、「見舞い・面会」、「機会」、「交流」が挙がっており、質問 7 のサブグラフ 5 と同様の問題が継続していることが推察される。サブグラフ 2 では、「家族」、「活動」、「低下」が挙がっており、家族との面会ができないことや活動量の低下などの影響が出ていることが示されている。サブグラフ 3 では、「感染」、「生活」、「多い」、「増加・増える」が挙がっており、生活の中で各種感染対策を実施している対象者が増えたことを示している。サブグラフ 4 では、「対象者」、「マスク」、「着用」が挙がっており、サブグラフ 3 と同様に感染対策としてマスク着用が徹底されてきていることを示している。

### 総括

質問 7, 8 の 2 つの質問への回答を解釈すると、各種感染対策は進んできているが、交流や外出機会の減少や見舞い・面会などの社会参加の側面に対する影響については、外出自粛下から新しい生活様式下に移行しても依然として解消しきれていない。現在、新型コロナウイルスの再流行下にあり、今後もしばらくはこのような状況が続く中、今後の方策として、これらの社会参加の側面を埋める作業の再獲得・提案、目標設定を通して、各種機能低下を防ぐ予防的な観点からの関わりが必要ではないかと考える。